



# 国際情報 INTERNATIONAL & INFORMATION

新潟国際情報大学広報 第1号

〒950-22 新潟市坂田字カタハタ46番地1 tel 025-239-3111 fax 025-239-3690 E-mail somu@nuiis.ac.jp ホームページ <http://www.nuiis.ac.jp>

## 「知る」ということについて

学長 内山 秀夫



羽仁五郎という歴史学者——映画監督の羽仁進さんの父上ですが、昭和十二年六月二十五日づけで岩波書店から『白石・諭吉』という本をだしました。当時の大日本帝国は、昭和八年には国際連盟を脱退して世界の孤児になっていましたし、そのひとりよがりを国内に向けて国民に緊張を強制するために、思想統制に血道をあげておりました。

東京商大(現 橋大学)大塚金之助助教授や河上肇の検挙、作家小林多喜一の拷問、虐殺、京都大学の滝川事件、全国小学校教員精神作興大会、文部省思想局の設置、陸軍省『国防の本義とその強化の提唱』の頒布、美濃部達吉教授の天皇機関説事件、第一次・第二次国体明徴についての政府声明、思想犯保護観察法公布、文部省『国体の本義』の発刊。

このように見てくれば、羽仁がこの時代思潮の中で「千百年来、未だかつて真実に反省されることのなかった日本の封建主義に反省を求める、まだ正面から批判を許されなかつたその歴史的真相を白日の下にさらし、久しかつたその抑圧から、わが日本の人々と、学問思想及び教育を、ついに自ら解放し

自立させる使命を担うに至つた必然性の中に、人間としての、また思想家としての、福沢諭吉の近代的真実があつた。」と書くことが、いかに勇気ある作業であつたか分かるにちがいありません。だが、この文章は「ページと五行だけの、いわば序文の最後の部分であつて、残り「九」ページはほとんど福沢の文章を接続詞でつないだ「作文」なのです。それでいて、福沢の批判精神のありようを実に見事に浮きあがらせている。私が最初にこれを読んだのがいつだったか憶えていないのですが、最近新潟の古書店で見つけて読み直してみて、私はすっかり感心しました。いえ、度肝を抜かれた、と言つても差しつかえありません。他人の文章に託して、自分をきわだたせる、そのスタイルにうたれたのです。

かつて「徒弟時代」ということばが、私たちの共通語でした。もちろん、大学生の頃です。それは羽仁さんのような大学者が福沢に対したそのことでは決してなく、自分たちが人類の先達を後繼するという意味を含んでいて、そうですね青年の客気を反映していた、といえます。その分だけ、若く青く生意氣でありますましたが、同時に人間・人類に対する畏敬の念もまじつていて、そこにも思います。そんな私たちに「無知は罪悪である」という歴史的真実が、がんがんとうちつけられるのです。

よき書と出会い、自分の「無知」を知つて愕然としたとき、知への限りない渴望が湧き上がつてきます。ソクラテスが語ったように、人は「ここ」から「知恵を愛する人」(フィロソフィア)になります。「遍歴時代」が始まるわけです。英語では「卒業」のことを、「コメンスメント」といいます。この言葉が同時に「開始」の意味をもつていることを知っている人は多いでしょう。よき始まりのために残された「今」を頑張って下さい。



## 豊かな情報文化で

### 未来を切り拓こう



情報文化学部の  
目標すところ  
学部長 浦 照一

私たちの大学は、その名が示すとおり、これからますます進む国際化と情報化の時代に備えた人材を育成することを目指して設立されました。いま、私たちは、情報技術の進歩により、瞬時のうちに地球の裏側の出来事を知ることができ、また、交通機関の発達により国境を越えて移動することも容易になっています。こうした技術進歩に伴う環境変化は、人間活動に根本的な変革を要求し、新しい類型の人材を求めています。それに対して、情報という視点から応えようとしているのが、この情報文化学部です。

それでは、情報とは何でしょう。データとはどんな違いがあるのでしょうか。また、知識とどんな関係があるのでしょうか。多くの人が情報の定義をしていますが、使う場面によってどれが適切であるかは異なります。このばは、次のように考えます。

（あるいは組織体）がデータを受け取ったとき、それを各自の持っている知識、価値観、あるいは美意識に照らして、つぎに自分のとする行動の選択に役立つか、またはその知識などに新たな要素を追加、またはなんらかの修正を加えることになったとき、そのデータは情報となります。

次に、学部の名前になっている情報文化について考えましょ。この言葉は耳慣れないものです。ある集団で情報を伝える、あるいは情報が交流する

こと、すなわちコミュニケーションが成り立つのには、その集団のなかで、何らかの文化の共有がなければなりません。その文化を情報文化ということが出

来ます。こういつても、まだつきりしない方が多いでしょう。そもそも文化という言葉 자체が捉えどころのないものです。文化とは、「社会を構成する人々によって習得・共有・伝達される行動様式ないし生

活様式の総体」であります（大辞林）。情報文化は人間の情報行動についての文化です。それは、人間が集団として活動する単位にあるといえます。

居住する地域、働く職場、仕事や趣味をともにする仲間、それぞれに情報文化はあるわけで、幾層に

も重なって存在します。

人間の活動が狭い範囲に限られていたときには、

情報文化は自然発生的にでき上がってきていたので、ひととの意識にはあまりのぼりませんでした。し

かし、人間活動とともに情報文化は絶えず変化しています。最近のマルチメディア技術やインターネットの進歩普及はその変化を加速しました。そして、国

際化を一層押し進めています。これらの動きは人類の火種となり、伝統文化の破壊をももたらすものとなりかねません。私たちは固有の伝統的な情報文化を尊重しながらもより上位の概念としての、

世界に通用する国際的な情報文化を考える必要があります。

私たちは、このような情報文化の観点から、これから世の中に備えた人材を育成しようとしています。

「ことは」に習熟し、地域文化の理解の上に、国際的な活動ができる人材の育成を狙つたのが情報文化学部です。一方、情報技術に習熟し、「ひと」に馴染む情報活用の仕組をデザインすることのできる

人材を育成しようとしているのが情報システム学科です。

いまや、国際化・情報化の大きな流れに逆らうことできません。私たちは、情報文化を軸に、これら二学科を両輪にして、これから社会の先導た

るとしています。情報という視点から世界の中を見据えることによって、自分の生き方、これから

人びとの眼差しを感じとり、複眼的に世界をどうして参考にしてもらつしかない。

地域研究とは、自分にとっての異文化を生きる

ことではないだらうか。

情報システム学科 教授 原口 武彦

## 国際地域論

情報文化学科 教授 原口 武彦

「コンピュータシステムは日本大な怪物であるといふ」とを学んで欲しい。

情報文化学科の学生は、第一年次後期から一つの地域を自ら選択し、その地域の言語（「コア語」、中国語、ロシア語、英語）、歴史、文化などについて、わゆる地域研究を開始することになる。その選択に際して、「この参考になら」とを期待されているのが、「国際地域論」である。

ところでもそも地域研究とは、さまざまなものとなりかねません。私たちは固有の伝統的な情報文化を尊重しながらもより上位の概念としての、世界に通用する国際的な情報文化を考える必要があります。

私たちは、このような情報文化の観点から、これら世の中に備えた人材を育成しようとしています。

「ことは」に習熟し、地域文化の理解の上に、国際的な活動ができる人材の育成を狙つたのが情報文化学部です。一方、情報技術に習熟し、「ひと」に馴染む情報活用の仕組をデザインすることのできる人材を育成しようとしているのが情報システム学科です。

学生のみなさんに参考にしてもらえるものが、あるとすれば、結局のところみなさんの前に立つている現物の私そのものであろうと考えていい。第二次世界大戦中に初等教育をつけ、戦後民主主義の中で成人し、今や経済大国といわれる国で生活する日本人が、研究の対象として選択したアーチィカルの現実に接して、何を見出しそれをどう感じ考えてきたのか、それを語る私をまるごと観察して参考にしてもらつしかない。

しかし、これからは前述の独立のしかも巨大な「コンピュータシステム」を時間やお金をかけ構築する必要はないであろう。より安く、早く構築でき、しかも使い易いオーフンな「コンピュータシステム」、すなはち、インターネットに接続できるシステム、すなはち、インターネットに接続できる「コンピュータシステム」が実用化されているからである。この新しい「コンピュータシステム」はオープンな情報システムと呼ばれている。学生諸君はこの怪物とつき合つて仕事をするよう定められている。

今はそのような時代である。怪物のどのような部分でもよいから仲良くなつてこれから世の中を渡つて欲しいと願つてゐる。

## コンピュータシステム

情報システム学科 教授 永井 武

# わたし 情報派 国際人

# わたし & 国際派 情報人

## 中国語とインター・ネット

情報文化学科三年 鈴木 裕生

中国語を専攻している私は、また同時に異文化理解として中国の文化などを勉強しています。他にも韓国、ロシア、アメリカなどの国々の文化をわかりやすく紹介してくれる講義があり、私はそれらの講義も選択しています。

入学したばかりのころは、中国のことは何も知らず、ましてや中国語など言ふも話せなかつた私ですが、日本について深い知識のある蔡先生や朱先生のおかげで、簡単な挨拶程度の会話ならできるようになります。そして以前に比べ、中国やその他国々の文化についての理解も少しあは深まってきたと思います。

さて、語学、異文化理解を私の大学生活の第一と

すると、第二としてコンピュータとの出会いがあります。今やコンピュータは、世界中のいろいろな情報が詰つてゐる魔法の箱です。

コンピュータを使えば、CDROMやインターネットを用いて様々な情報が素早く手に入ります。私がインターネットを初めて使つたときには、アメリカにつなげたのですが、そのとき、野球選手の野茂の活躍を書いた文書を読んで、「勿論英語で」「いま、アメリカの人が読んでいる野茂の活躍を、私も一緒に読んでいるのだ」と、感動したのを覚えています。

大学で、コンピュータなどの各種情報機器を用いて、いろいろな情報を入手していますが、それらの情報を使うのが、多くの国々の人と上手に、コミュニケーションが取れるようになります。

## 英語とコンピュータと

情報システム学科三年 本多 信之

高校2年の夏、私はホームステイの為に渡米しました。しかし、お世辞にも会話ができたとはいえない。その時私はもつとうまく英会話ができればと思った。

話は変わって、同じ頃高校でパソコンというものに初めて触れた。いろいろとプログラムを作つて遊んでいるうちに、私はパソコンが趣味になってしまった。

進学するに当たつて、私は英語とコンピュータを学ぶ大学を探してみた。そんな中、新潟の新設大学の情報を得た。それがNIUSであった。文系なのにコンピュータを教えてくれる。顧つてもないニュースだった。棚からばた餅とはまさにこのことであろう。

さらに、コンピュータだけではなく語学にも力を入れている。これが私をNIUSに結び付ける決定的因素だ。というのは、専門学校はコンピュータしか学べないので対し、大学はそれに加えて語学も学べるからである。さてそれでは私は志望に沿つた大学生活を送つてゐるか。もちろん答えは「はい」。

情報に関しては、ただいまマルチメディア・クリエイション・クラブとインターネット研究会を掛け持ちしている。これらの部で、学んだ知識を駆使して、大学案内のパンフの1ページを作成したり、新潟日報のホームページ作りのお手伝いをすることまで、幅広くマルチメディアを満喫している……つもりである。

先日、「あなたのインターネットホームページみました」とアラスカから電子メールが突然きた。英語に関しては現在ESSで、会話を勉強をしている。

「ハツ」と思われる事が、人にはたまつたまる。「ハツ」と思つて、その人の見方や考え方を変えることもある。本学の海外研修はそのような機会となり得る絶好のチャンスの一つだ。多くの学生にとって、外国人を訪れるということは初めての経験かも知れない。

「異文化」に触れ、大きなショックを受けるだろう。

昨年度実施された海外研修に参加した大勢の学生が、「実に有意義だった」と語つているのは

そのことを物語っている。

今年度も一人でも多くの学生が、学生生活を

考え直してみる大きな契機として海外研修に

積極的に参加してもらいたい。

本学の海外研修には、一般的の観光旅行では体験できない、内容豊かな大学訪問など盛り沢山

のプログラムが組まれている。

アメリカ西海岸では世界の最先端をいく企

業訪問もある。ロシア極東では氷結した川や海

の上を歩いてみよ。中国では万里の長城はじめ多くの名所旧跡を訪れる。韓国ではホームス

テイを経験することもできる。

さあ、みんなで海外研修に参加して外国体験

をしよう。(詳しくは学内掲示を)

## 国際交流委員会から 海外研修旅行について

### 学生部から

交通事故が多発しています。平成八年度本学学生が関わった事故は九件、また、十月には教職員が続けて事故に遭い、重傷者もいました。冬期間の道路は凍結している。運転者も歩行者も十分注意して下さい。

## 学習指導委員会から

### 就職指導委員会から

就職はその人にとって生の問題ですが、昨今の雇用情勢は依然としてきびしいと言わねばなりません。去る十月六日に開催された本学の就職懇談会には予想外に多数の企業関係者の参加を見ました。数多くの職業の中から自分の適性能力をふまえて選択することが大切です。まず自己分析を徹底的に行つて、就職指導委員に相談に来て下さい。

就職委員会は教員六名事務局職員三名で構成されています。教員は池田庄治、広瀬貞三、高橋正樹(以上文化学科)、永井武、片山禎昭、榎俊作(以上システム学科)で、委員長は池田、副委員長は永井が務めています。

### 情報センター

#### 卒業研究用資料の貸出について

利用資格 三・四年次学生  
冊数 五冊以内  
利用期間 三十日以内

4年次になると、必修科目として卒業研究を行います。卒業研究は興味を持つテーマについて教員の指導の下で深入研究するものです。情報システム学科では十一月初めに指導教員が決定し、3年次ゼミと同じ教員に指導を受けることが原則の情報文化学科と定並みをそろえて、研究準備に入れるようになりました。

一年間の卒業研究を通して、特定のテーマについて資料や情報を収集する方法、資料を解説し理解する力(実地調査や実験、プログラム体験等)を通して問題を分析し、自分で工夫して解決する力を習得されます。そして、これらを自分の見方と体系づけ、研究成果(論文)に纏めることができます。ぜひ、取り組んで見たいテーマを自分で探すよう心がけてください。

これまでの見方と体系づけ、研究成果(論文)に纏めることができます。ぜひ、取り組んで見たいテーマを自分で探すよう心がけてください。

これまでの見方と体系づけ、研究成果(論文)に纏めることができます。ぜひ、取り組んで見たいテーマを自分で探すよう心がけてください。

# 海外研修でカルチャーショックを体験

## 謝謝中国

情報文化学科三年

柳 伸一

## ロシアで知る日本

情報システム学科三年

黒崎 ゆかり

中国では、驚きと感動の連続だった。むこうでの体験で真っ先に頭に浮かぶのは、北京大学の学生との交流会のことだ。「源氏物語」、「雪国」等の文学の話から始まり、日中の歴史、風俗・習慣、映画、音楽、スポーツ等話題は尽きることなく楽しいひとときを過ごした。彼らと話をしていると言葉の端々や態度に嫌味のない知性と教養を感じ、私達日本人がまだ精神的に幼いなと思うことが度々あった。会話はなるべく中国語で話すよう努めたが、私の中国語がまだ未熟なために英語や筆談も用いた。その点で相手の学生には大変不快な思いをさせてしまったかもしれないと思配していたが、日本に帰ってきたときにその方から、「末永く友達でいよう」といった内容の手紙が届いていてとても感激した。

天安門、故宮、頤和園、明の十三陵、万里の長城、外灘、豫園等の名所はやはり素晴らしかった。が、その美しさを文章で詳しく記すことは非常に困難であり、またそれは人に教えられて分かるものではないと思う。だから知りたいと思うならば、実際に見て各人で確かめてほしい。

この研修で実際に中国を訪れたことによって、大ができますが、時間を借りることはできません。情報システム学科だからといってアメリカへの参加に限ることはありません。折角のチャンスを無駄にしないでください。行きたい国に行けばいいのです。行くなら、今。今しかない!

## 新製品調査

十一月二十日の日本経済新聞は、宗澤、正田両先生が最近発表された「新潟県内製造業の新製品開発実態調査」を紹介した。この調査は本大学の共同研究助成を得て実施したもので、県内の企業についての調査としては最初のもの。尚、この調査は十一月二十五日の新潟日報第一面でも紹介された。

# マスコミ 記事から

## 中国語劇、コリア語劇の紹介

十一月二十五日の新潟日報は、紅葉祭のメイン

寒空に白鳥の舞う時節、ようやく大学広報第一号の創刊にたどり着きました。このコラム名

は「ゆうげん」と読みます。実は私は当初これを

本誌の表題にしたいと思いました。しかし、余

りにも古色蒼然の印象ですのよしました。第

一号ですから、学長、学部長に正面切って建学

の精神を語つて戴きました。格調が高すぎて、

若い学生諸君の愛顧に堪えないかも知れません。

だが、学長の巻頭言には、歴史を忘れた者は精

神の支柱を失つて生きているのだという信念が、

教育愛に転じている厳しい鞭撻が秘められて

います。学部長のお言葉は、文字どおり、未来と

世界へ翔び立つ若い世代への期待を込めた学

部の説明です。よく読んでほしいと思います。

本学には、インターネットで知られるような

先端情報テクノロジーに精通したベテラン・新

進の教員が多く参集し、県下随一のメディア環

境を構築すべく頑張っています。同時に、機械

はデータとプログラムで動くが、人間は希望と

期待で動くものということを知悉した人間・社会。

文化「学」の大家も同居しています。湧き水が樹

木の縁を濃くするように人間の特性は、自分の

秘めた可能性を知つて、希望を新たにすること

でどこまでも伸びるもので、「湧源」佐潟のあ

る赤塚の地に「みずき野ニュータウン」が生ま

れようとしています。新しい文明は僻遠の地から生ずると言います。ご執筆戴いた学生・教職員の皆様に感謝申し上げます。

# 湧 YUUGEN

編集後記に代えて

広報委員長 会田 彰

